

ばんげい 教育ほつとにゅーす かわら版

こ みち

教育の小径

2010年

7月号
No.21

今月の花/ハス
花ことば/雄弁・清らかな心



今月の歳時記

土用の丑の日

土用はいまでは夏だけですが、かつてはすべ
ての季節にありました。丑の日とは十二支の丑
のことで、今年の丑の日は7月26日です。この
時期は暑さが厳しく、夏ばてしがちです。この
守るために、しじみや餅や卵など「精の付くも
の」を食べました。ウナギを食べるきつかけをつ
くったのは平賀源内だと言われています。



北 俊夫先生
国士館大学教授

今月のテーマ スタディー・ナビゲーターの開発

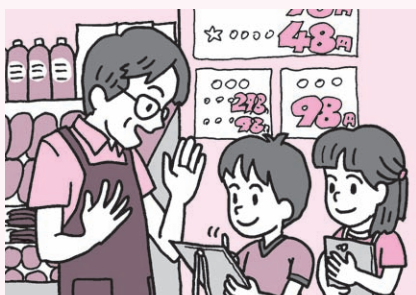
- わが国のこれまでの学校では、学習の仕方についての指導が体系的に行われてこなかったという課題があります。
- 子どもたちに主体的な学習態度を育てるためには、「学び」を支援する教材を開発・作成し、意図的に指導することが大切です。習得した学び方は「一生もの」になります。

子どもの「学び」に課題はないか

子どもに主体的な学習態度を育てることを意図して、社会科や生活科、理科、総合的な学習の時間などで調べ学習が盛んに展開されています。最近では、国語科の授業でも調べる活動が導入されています。子どもたちが自らの興味・関心や問題意識にもとづいて、自ら問題解決に取り組む場を設けることはきわめて重要なことです。

ところが、子どもたちの学習活動の様子を観察していると、時間をかけているわりには、学習に深まりが見られません。何をどうやればよいのかわからず、はい回っている子どもも見られます。ノートを見ると、資料を丸写ししています。

こうした状況が見られるのは、どこに課題があるのでしょうか。子どもた



ちに自分で調べるよう促し、一定の時間を設けることはとても大切なことです。しかしそれだけでは不十分です。

子どもの「学び」を支える教材

わが国の学校では、これまで学習内容にかかわる教材研究をかなり熱心に行ってきました。ところが、子どもたちに学習の仕方を身につけさせる手だてについては、必ずしも十分な指導が施されてこなかったようです。調べるよう促しますが、調べ方については丁寧に指導されていません。「考えなさい」とは言いますが、考え方を具体的に指導してはいません。

表題に示した「スタディー・ナビゲーター」とは、子どもの「学び」の水先案内をする「もうひとつの教材」のことです。自動車にセットされているカーナビを連想するとわかりやすいでしょう。先進校では「学び方カード」などの形で教材として開発し、子どもたちに活用を促しています。

この種の教材は、問題解決に当たって困ったときに困った子どもが活用するものです。また、数回活用し、方法を習得すると、必要でなくなります。

自分なりの方法を見いだすこともあります。カーナビと似ています。

いま、「調べ方」「まとめ方」「考え方」「話し合い方」「問題解決の仕方」などさまざまな観点から、それぞれ具体的な方法を示した教材の開発と作成が求められています。

生涯学習の基礎づくりとして

子どもたちに学び方を示した教材を提供することは、その時間の学習のためだけではありません。習得した学び方は、他の教科等の学習において必要な場面で活用することができます。その意味で、この教材は超教科的な役割をもっています。

学び方は生涯学習を進める際に必要となるものです。博物館や美術館などの利用の仕方、パソコンの利用の仕方やマナー、必要な情報の収集や活用の仕方、自分の考えなどをレポートにまとめる方法などは、生涯にわたって活用できる「一生もの」になります。

その意味で、学び方に関する教材を開発し、子どもたちに学び方を習得させることは、生涯学習の基礎づくりにつながるものです。



図画工作科の活動は、子どもたちにとって自分のイメージを思い思いに膨らませながら、想像的かつ創造的に取り組むことができる楽しい時間です。学習指導要領にも、感じたことや想像したことを絵や立体、工作に表すとあります。子どもたちの造形的な創造活動が重視されています。

このことは、すべてを子どもに任せてしまうことではありません。教師が適切に指導することによって、子どもたちは自分の思いや創造性を発揮し、豊かな作品を製作することができるようになります。指導すべきことに「技能」があります。例えば、絵筆の使い方、絵の具の混ぜ方や塗り方、のこぎり、金づち、釘、はさみなど道具の適切かつ安全な使い方などがあります。

新学習指導要領には、各学年で取り上げる材料や用具が示されています。これまでの学習指導要領には示されていませんでした。これらの使い方を習得しているかどうかは、作品の質を大きく左右します。各学年でしっかり身につけさせることが求められます。

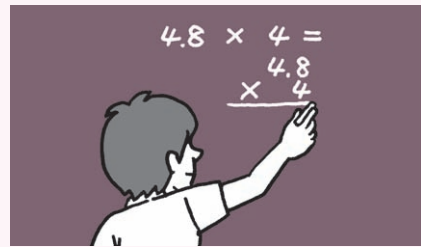


「板書を見れば、授業がわかる」と言います。授業を実際に参観していなくても、授業後にその学級の板書の内容を見れば、授業がおよそどのように展開されたのか、授業の入り口から終末までを理解することができるという意味です。これは板書の重要性を訴えているものです。

板書には子どもたちの思考を促し、理解を深めるという重要な機能があります。その意味で、板書の事項は子どもたちにとって「もうひとつの教材」といえます。構造的に見える板書は、多くの場合、授業が構造的に展開されています。たかが板書ですが、されど板書です。

教師は授業に当たって、展開の流れ

をイメージします。その内容を板書として一面に表すことによって、より構造的になります。文字の大きさや色づかいを工夫すると、授業の強調点や重点事項が自ずから明確になります。板書計画を作成すると、授業の構造が具体化し、イメージトレーニングにもなります。授業に当たって「板書計画」を作成することの意義を改めて確認したいものです。



社会科、理科、生活科、家庭科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間など多くの教育活動の場で、地域の人たちが授業に参加し協力しています。こうした取り組みは「地域の人材活用」と言われています。人財とも言います。

地域の人たちは「ゲスト・ティーチャー」と言われています。ゲストはお客様ですから、お客様としての先生という意味です。地域の人たちは授

業のお客様として、子どもたちに指導しているのでしょうか。

いま、地域と一体になって学校づくり、授業づくりを進めることが求められています。地域の人たちは、子どもたちにとって、あるいは教師にとっても「もうひとりの先生」です。その意味で、「コミュニティ・ティーチャー（地域の先生）」と言ったほうがよさそうです。

「教育の小径」定期購読のお勧め

北俊夫先生の教育コラムが毎月読める

「教育の小径」を毎月弊社から直接お届けします。

ご希望の学校は、学校名・所在地・ご担当先生名・部数を、FAXまたはEメールにて、文溪堂営業企画室までご連絡ください。1部からお届けします。



FAX.058-398-2821

Eメール e-kikaku@bunkei.co.jp

Information (PR)

7月発刊!

改訂 これでバッチリ!教育評価!

実践教育評価事典

新しい評価の観点对応!

- ◎監修・著 梶田毅一 加藤 明
- ◎定 価 2,520円(税込)
- ◎発 行 株式会社文溪堂

B5判・240ページ・1色

